

クリエイトひがしね ニュース

発行 NPO法人クリエイトひがしね

999-3711 山形県東根市中央1-5-1
タントクルセンター内

TEL 0237-43-0732
www.higashine.org



ボランティア活動から学ぶ

副理事長 伊 勢 博

東松島市の被災者のみなさんからの要請にこたえて、8月22日に仮設住宅や市民センターを会場に支援活動に行ってきました。被災者の方々に少しでも元気と笑顔を届けようと企画した支援内容は、いずれも当法人が誇る支援内容です。

初めての地での支援活動ということで最初は不安でしたが、すぐに本領を発揮！和やかな雰囲気の中とても充実した時間を共有させていただき、素晴らしい経験を得ることができました。

昼食の時間、クリエイト参加者全員から「支援活動を通じて得られた充実感で感無量」との感想をもらい、本当に実施してよかったと感じ取ったところでした。

思いおこせば、1995年に発生した阪神淡路大震災。そこで災害復旧や支援活動に大活躍した多く

のボランティア達の活動がきっかけとなり、法的に人格を与えて社会的に認めていこうと、1998年6月18日に閉幕した通常国会でNPO法が成立し、今のNPO法人の誕生に至っています。

NPOが行なう事業とは、「地域が求める支援」や「地域が抱えている課題」を解決するために活動していくことにあり、私たちが経験したこの度の東松島市への支援活動は、まさにNPO活動の根源であり、「課題解決（支援）」がNPOの大きな役割であることを私たちに教えてくれたのではないのでしょうか。

参加いただいたみなさんへ感謝すると共に、機会をつくっていただいた、東根市社会福祉協議会の職員のみなさんへ御礼を申し上げます。

ひがしねの 宝物さがし ふるさと遊学親子探検隊

8月7日（月）東根の魅力を親子で発見しようと15名の探検隊員が、マイクロバスで市内をめぐりました。与次郎稲荷や小田嶋城址周辺では、菊地理事長からその生い立ちや物語を聞いて感動し、関山の文学の杜では東根ゆかりの文学の足跡をしのびました。大滝ドライブインで腹ごしらえの後、石崎山では高台からの東根の街並みに心を奪われ、林木育種場では原種交配に驚きました。石崎山とは反対にあたる山形空港からは奥羽山脈のパノラマに目を見張りました。最後のポイント日立建機カミーノでは土木機械の製造現場を見学し、さまざまな東根の魅力を発見した一日でした。目に見えた宝物を期待した参加者に、村田隊長は「今日見たこと聞いたことが皆の心の中で宝物になっている」とこたえました。（奥山忠雄）



日立建機カミーノ工場見学
ロードローラーの前で記念

遊戯室においでよ!

子育て支援センターの隣にある小さなお部屋が遊戯室です。ここでは0才から2才までの赤ちゃんが遊べます。

おうちもいいけど親子共少し気分転換してみたいとき、誰かにお話を聞いてほしいときなど利用できます。スタッフも育児が少しでも楽しいと思えるようお手伝いいたします。また、遊戯室では週に2回サロンも開設しています。（石山千晶）

5/24

今日はいっぱいつらくてスタッフの方とお話をしました。子どもを育てるって本当にいいこともあれば嫌になるときもありますよね。でもここに来ると少しでも前向きになっていい母になることをちがうんだけといつもイライラの毎日でせつないです。

遊戯室の「つぶやきノート」より
利用者のコメントを紹介します



6/22

避難で山形に来ています。今日は2回目、天童からおじゃましました。たくさんのおもちゃで楽しく遊ばせていただきました。子どもの刺激にとってもよいです。山形の方はとてもあたたかく何度が助けてもらっています。人みしいから慣れてほしくて人と接する機会になればと思っています。

8/5

今日は8カ月の息子と久しぶりにきました。アパートで二人きいだと遊ぶネタが尽きます・・・。ここは広いしおもちゃもたくさんで息子もいい刺激にないます。スタッフのみなさんも毎回親切に声をかけてくれるのでとてもうれしいです。育児で弱った心にとこもしみてきます。うちの息子はこの2カ月ぐらいから夜泣きが始まり今がピークなかんじで、寝不足でボロボロです。つぶやきノートを見るとみんな大変で頑張っているんだとはげまされます。

7/25

久しぶりにゆうき室を利用しました。けやきホールの方の多さに思わずこちらを利用しました。上が3才下が1才ですが、上が3カ月頃から利用させて頂いています。保育園があるので少なくないでしたが、スタッフさんの毎日のお気遣いがあいがたく思っています。ほんとにいろいろありがとうございました。二人とも大きくなりました。

出前タントクルセンター



8月22日、休館日を利用して東松島へ出向き、「出前タントクルセンター」を実施してきました。これは社会福祉協議会が定期的に行っている東松島への支援活動の一環で、「タントクルに遊びにいきたいが行けないので来てほしい」という声に応えた企画です。当日の朝26名のメンバーが7時30分に出発、10時に現地到着後、「移動サロン」「だがしや楽校」「からだであそぼう」の3つのグループに分かれ活動を行いました。

みんな集まれ！だがしや楽校

市内に何カ所もある仮設住宅の東集会所を会場に、小学生や高齢者30名ほどの方々と触れ合いました。お手玉、おはじき、コマ回しなどの昔遊びで、育った時代や故郷はちがっても、各々が昔おぼえた遊び方を発揮し、挑戦し、教え合うあつという間の2時間でした。初めて会ったスタッフと絡み合い、笑い転げる男の子。「友だちも亡くなったんだ」とボソッと呟いたA子ちゃん。暑い日差しの中を、祖母と連れだってみんな笑顔で戻られたのが嬉しかった。（鈴木茂子）



赤ちゃん集まれ！移動サロン



仮設住宅が最も多く建てられている（577世帯）グリーンタウン矢本地区の集会場に、3ヶ月のとても元気な男の子の赤ちゃんが、私たちを待っていてくれました。参加人数は3組で9名でしたが、ゆったりと交流ができ、話が盛り上がり親しくなれたと喜んでくれました。子供たちと一緒にマラカスを手づくりしたり、最後にポンポンを持ってみんなで体操を楽しむことができました。（芦野友子）

からだであそぼ！

みんな友だちの時間

会場に集まった約40名ほどの皆さんは、開始前から紙ひこうきであそび、本番の室内オリンピックなどの遊びに歓声をあげ本当に楽しい時間を過ごしました。中でも「ファミリー3億円」は、じいちゃんばあちゃんから孫、ポチ役までの家族が、ファミリー単位で勝負しあうドキドキゲームで最高潮に。スタッフの顔が輝き、集まってくれた子どもたちも大人もいい顔になった会場でした。「また来てほしい」「よかったねえ」の声にみんな幸せになりました。（深瀬豊春）



クリエイティブがしねメンバー紹介 ⑤

結城 栄子



こんにちは。さくらんぼタントクルセンターが平成17年4月1日金曜日、はなばなしくオープンして以来、ずっとずーっと遊びセンターけやきホールに勤務させていただいており、早いもので8年目になりました。皇太子殿下の行啓、タントクルセンター100万人達成ミリオンフェスタ等など、いろいろなことがありました。最近では「小学生のとき遊びに来てた！おぼえてる？」と高校生が来館してくれます。みなさんに愛されるスタッフになれるよう「初心忘れず」頑張ります。

佐々木聖子



8月からけやきホールにお世話になっています。主人の仕事の関係で昨年東根に越してきました。初めてけやきホールに来館した際、生き生きと元気いっぱい遊ぶ子どもの姿を見てとても感動したことを覚えています。それから一年、あのときと同じ元気いっぱいな子どもたちの声に囲まれながら、仕事ができる幸せとやりがいを感じております。私自身は5歳と2歳、そして11カ月の子どもの母親です。「笑顔で日々学習」の精神を忘れず頑張っていきます。

高 桑 秀



クリエイティブがしね創立時に保育所長を退職された方々に誘われて企画員となりました。子育てのお手伝いもさることながら、私自身だんだん変化してきている子育てを勉強させていただいています。保育園に通っている孫は何かあることに車で1時間かけてやってきます。それでも娘は待っている親が側にいることでホッとしている様子。核家族が多い今の時代、子育てはみんなで見守ってあげないと考えながら活動に加わっています。

竹 村 力



30年勤めた食品会社を定年退職後村山市役所福祉課勤務を経て8月から施設コーディネーターとして勤務しております。毎日が勉強の連続ですが、皆様のおかげで仕事にもなれてきました。本人はいたって明るい性格でして、施設を利用される方々には常に笑顔で接するよう心がけております。休日には年長兄の孫といっしょに、自転車で近くの公園までサイクリングするのが楽しみです。どうぞよろしくお願いします。



クリスマスコンサート

音楽のおくりもの



音楽体験コーナー

マリンバ・打楽器
ドレミの歌体操
台所コンチェルト
ユーモアミュージック

歌のおねえさん
ピアノ
マリンバ
アコーディオン
フルート
コントラバス



2012年 **12月8日(土)** 前売券 **500円**
(当日600円)

開演 6時30分(6時開場)
タントクルセンター大ホール

出演
アンサンブル
・シネット



このコンサートには館内自動販売機の売上金が費用の一部として当てられます。

編集 後記

★記録的に暑かった今年の夏、その中でふるさと探険隊、東松島支援、森のようちえんと矢継ぎ早に企画が実施され、頭も心もあつくなった夏でした。おかげでスペースが足りなくなるほど充実した紙面と

なりました。一つ一つの企画がトータルとなりクリエイティブの存在感を大きくしていきます。その活動を伝えるのがニュースの役割であることを再認識しながら紙面をつくっていききたいと思います。(村田)